

3 小中合同研修計画

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための工夫 ～教えて、考えさせる3ステップを通して～

(1) 主題設定の理由

ア これまでの研究から

一昨年は、市川(2008) が提唱する「教えて考えさせる授業」をモデルに栗島浦小中学校授業スタイル「教えて、考えさせる3ステップ」の確立を目指した。全職員で実践を積み重ね、PDCAを機能させて、授業での児童生徒の目指す姿や授業構成のあり方を明確にした。

昨年は、児童生徒の学習が成立する有効な手立て（発問・指示、課題など）のあり方を追求し、研究を深めることができた。

今年度は、本研究主題3年目を迎える。栗島浦小中学校授業スタイルでの授業を展開する中で過去2か年の研究内容の有効性を検証し、各教科の指導計画の改善を図りたい。

イ 児童生徒の実態から

全校児童生徒27名（小学生10名、中学生17名）の極小規模の学校である。新規入学のしおかせ留学生の基礎的・基本的な知識・技能の定着度や学習意欲などは未知数な部分が多い。また、島内出身生徒は、多様な考えに触れる機会が少なく、表現力の育成が求められる。この課題を解決するために、個に応じた指導を充実させると同時に、児童生徒の言語活動や学び合いの場面設定が必要であると考え。また、授業のユニバーサルデザイン化も進め、すべての児童生徒にとって学びやすい環境を整えていきたい。

以上、ア、イの理由から、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着に栗島浦小中学校授業スタイルの継続が有効であると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究仮説

小中で連携し、個に応じた指導を充実させながら、栗島浦小中学校授業スタイルで授業を構成すれば、児童生徒の理解がより深まり、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られるであろう。

(3) 研究の全体構想

【教育目標】

・自ら進んで学習するこども（知）

・思いやりを持ち助け合うこども（徳）

・めあてを持って体をきたえるこども（体）

【研究主題】

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための工夫

～教えて、考えさせる3ステップを通して～

〈研究内容1〉 栗島浦小中学校授業スタイル部会

ア 「教えて、考えさせる3ステップ授業」

〈研究内容2〉 UDL部会

ア UDLの視点での授業・教室環境づくりの
点検・推進

〈研究内容3〉 小中共通の取組

ア 家庭学習強調週間、学習のきまり強調週間
イ Web 問題・NRT・全国学力学習状況調査結果分析
ウ Web 配信問題の有効活用

(4) 研究の概要

ア 研究内容1 (粟島浦小中学校授業スタイル部会)

(ア) 粟島浦小中学校授業スタイル ※各段階で児童生徒の理解状態を把握しながら進める。

つかむ(教える)	教師から説明を受け、発達段階に応じて要点をノートにまとめる。
	<p>【教師の働き掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを板書して、児童生徒に示す。「～できるようになる。」など児童生徒の具体的な姿を示し、それをノート等にかかせる。 ・本時で指導する未習内容(教科書に書いてあるような基本事項)を教える。必要に応じて、それに関連する既習内容を復習する。 ・教材、教具、操作活動などを工夫し、分かりやすい教え方を心掛ける。 ・児童生徒と対話したり、発言や挙手を通じて理解状態をモニターしたりする。

基礎的・基本的内容を習得させる。

言える(考えさせる①)	教師に教わった内容を児童生徒同士で説明し合う。 教師に教わった内容を児童生徒自身の言葉で説明(発表)する。
	<p>【教師の働き掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個で考える時間を保障したり、ペア・グループ活動等、学習形態を工夫したりする。 ・説明は最後まで聞かせ、質問は説明後にさせる。 ・つかむ場面で教えた内容の理解が不足していると判断した場合は、再度本時で指導する未習内容を教える。

分かる(考えさせる②)	ペアやグループ活動をしながら問題解決的な学習に取り組む。
	<p>【教師の働き掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題(誤解していそうな問題・発展的な問題・教えたことを使って解けそうな問題)を示す。 ・具体的な到達点を明示する。 ・児童生徒の思考を促す発問を工夫する。 ・必要に応じて、学習プリントなどを用意する。 ・課題に応じて、個で考えさせる時間を保障する。

活用させ定着を図る。

まとめる(考えさせる③)	課題について、何が分かったか、できるようになったか等を自己評価する。					
	課題に応じて、本時に教わった内容の確認問題に取り組む。					
	<p>【教師の働き掛け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じ、自己評価の文型やキーワードを示しノートや学習プリントに記述させたり、発表させたりする。 <p>【まとめ方】(発達段階に応じてまとめ方を選択する)</p>					
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>①情意面</td> <td>②理解の段階</td> <td>③他者との関わり合い(賛成や反対の意見を記述する)</td> </tr> <tr> <td colspan="3">④自己評価(授業評価)(他者との関わり合いの中で自分の修正点を記述する)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じて、本時の課題の確認問題を用意し、理解を確認する。 	①情意面	②理解の段階	③他者との関わり合い(賛成や反対の意見を記述する)	④自己評価(授業評価)(他者との関わり合いの中で自分の修正点を記述する)	
①情意面	②理解の段階	③他者との関わり合い(賛成や反対の意見を記述する)				
④自己評価(授業評価)(他者との関わり合いの中で自分の修正点を記述する)						

※ 言語活動時の留意事項

- ① 「主語」「述語」を使って発表させる。 ② 結論を先に述べて、根拠を次に述べさせる。

(イ) 粟島浦小中学校授業スタイルの授業構成の際に配慮すべき事項

- ・児童生徒の発達段階や教科領域・単元などの特性により、4つの段階を1時間から数時間の授業に組み入れる。「基礎的・基本的内容を習得させる」授業と「活用させ定着を図る」授業のバランスや重なりを明確に整理して構想する。

【例】・1時間単位が「①つかむ」「②言える」まで

1時間単位が「③分かる」と「④まとめる」

- ・2時間単位で「①つかむ」と「②言える③分かる④まとめる」を構成する

イ 研究内容2 (UDL部会)

(ア) UDLの視点での授業・教室環境づくりの点検・推進。

- ・各学期でUDLの自己評価を行い、職員の意識を高める。
- ・自己評価の結果に基づいて、協議を深める。

ウ 研究内容3 (小中共通の取組)

(ア) 家庭学習強調週間、学習のきまり強調週間

- ・年間4回(6月、9月、11月、2月)に約2週間の期間で、カード等を使って家庭と連携し、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・年間2回(5月、10月)に約2週間の期間で、全校一斉に学習のきまりを意識して生活し、学習規律の定着を図る。
- ・小学校は学年×10分、中学校は60分以上の学習時間を指す。

(イ) Web配信問題、NRT、全国学力・学習状況調査の結果を分析する。

- ・NRT(5月)、Web配信問題(長期休業中)、全国学力・学習状況調査(夏季休業中)の分析を行い、以降の指導にいかす。

(ウ) Web配信問題を有効活用する。

- ・新単元指導前に、Web配信過去問題を確認し、指導のポイントを明確にする。
- ・事前に過去問題、事後にサポート問題を実施・解説し、基礎・基本の定着を図る。
- ・発展問題を計画的に実施し、授業等で補充する。

(5) 検証方法

ア Web配信問題およびNRT、全国学力・学習状況調査結果

今年度に粟島浦小中学校授業スタイルで授業を行った単元の正答率、無解答率

イ 児童生徒の学校評価アンケート結果(7月・12月)

ウ 「目指す児童生徒の姿」に対する授業での見とりを含む教師の自己評価

(6) 研修の進め方

ア 授業スタイル部会・UDL部会

授業スタイル部会	UDL部会
◎長谷川 松岡 大月 明星	◎本保 阿部 富所 大村

イ 研修の流れ

- (ア) 全職員が公開研究授業を実施する。(教科部会は設定せず、各職員が各自で教科を選択する)
- (イ) 公開授業1週間前までに、授業者・研究推進委員・小中教頭で指導案検討会を行う。なお、対外指導者を招へいする場合は、2週間前までに指導検討会を行う。
- (ウ) 指導案は原則、略案とする。(ただし、授業改善の手立てを本時に位置付ける。)
- (エ) 公開授業後の協議会の内容を研究推進委員と授業者で整理し、明らかになった課題を次回の公開授業・協議会の協議題とする(PDCA)。なお、協議会の司会は研究推進委員が務める。

ウ 研修年間予定

月	執行者	内 容
4	研究推進委員	・第1回小中合同研修会(研修に対する共通理解)
5	長谷川教諭 学習指導部 学習指導部	・公開研究授業①【中学校 理科】 ・学習のきまり強調週間① ・NRT 結果分析
6	松岡教諭 学習指導部	・公開研究授業②【小学校 国語】 ・家庭学習強調週間①
7	大月教諭 明星教諭	・公開研究授業③《学力向上に係る計画訪問》【中学校 英語】 ・公開研究授業④【小学校 国語】
8	全教職員 全教職員 全教職員 研究推進委員	・実践記録の作成と指導計画への位置付け ・Web 配信問題結果分析 ・全国学力学習状況調査結果分析 ・第2回小中合同研修会【これまでの実践の報告・検証】
9	学習指導部	・家庭学習強調週間②
10	本保教諭 学習指導部	・公開研究授業⑤《市町村支援事業》【小学校 国語】 ・学習のきまり強調週間②
11	富所教諭 阿部教諭 学習指導部	・公開研究授業⑥《実践力向上研修(希望)》【中学校 数学】 ・公開研究授業⑦【中学校 技術】 ・家庭学習強調週間③
12	全教職員	・公開研究授業⑧《村上市教委学校訪問(予定)》
1	全教職員 全教職員 研究推進委員	・実践記録の作成と指導計画への位置付け ・Web 配信問題結果分析 ・第3回小中合同研修会【これまでの実践の報告・検証】
2	学習指導部	・家庭学習強調週間④
3	全教職員	・Web 配信問題結果分析